



努力する人は悩む

校長 赤松 弘一



悩みの無い人はいるのでしょうか。悩みの程度は違っていても、多かれ少なかれ誰もが悩みを持っているでしょう。ある人にはとても解決しそうにない悩みが、他の人には何でもないことだったり、ある人には当たり前のことが、別の人には頭から離れない悩みだったりします。

嵐の海で帆柱が折れ、舵を失い、最早助かる見込みもなく漂う難破船の中では、飢えと渇きに苦しみ、死の恐怖に襲われます。水さえ飲めればと願います。生きるか死ぬかの瀬戸際では他に望みはありません。水が手に入ると食べ物が無いことに絶望的になります。パンのかけらでも狂おしく食べたくになります。食べ物が手に入ると、陸地を夢見て、島影の見えないことに絶望します。悩みは1つが解決してもすぐその後新たな悩みが生じます。悩みはなくなることがありません。



3年生の多くの方は高校進学という大きな悩みを持っているかもしれません。「高校に合格したい、落ちたらどうしよう」当然不安になり、悩みます。しかし合格すればその悩みはあっさり消えます。最高の幸せを感じるでしょう。しかし、すぐに次の悩みが生じます。「勉強が難しい」「ついて行くのが大変」「学校生活に馴染めない」卒業した生徒が中学校を訪ねてきて、毎年同じように悩みを話します。

悩みは無くならないことを自覚し、それに押しつぶされないように「上手につき合う」か、「かわしていく」か、「乗り越える」しかありません。乗り越えられたときや解決できた時の喜びや達成感人は成長させたり、生きがいを感じさせたりします。悩みと対峙し解決することで自己有用感が高まります。しかし、いつも悩みと対峙し、乗り越えようとするばかりでは疲れ果ててしまいます。時にはかわしたり、逃げたり、目標を他に替えることも大切です。世界中の人は同じ生き方をしてはいませんが、生き方は何通りもあります。あなたに開かれた道は1つではなく、また塞がっているドアのすぐ横には開いているドアがあるかもしれません。「これしかない、これができないと自分はダメだ」と思うことがありますが、後になってその時のことを振り返ると、なぜそんなに視野が狭くなっていたのかと思います。

とはいえ、皆さんは毎日悩み、落ち込み、また乗り越える。これを繰り返します。それこそが学びであり、生きていく力を身に付けていく経験なのです。悩みに向き合ったとき、まず自分はその解決のためにどんな努力をしているのかを見つめましょう。努力しているからこそ悩むのです。

世界中には戦争や飢餓や病気などで苦しむ若者がたくさんいます。そして格差や貧困、差別や孤独などに向き合いながら悩み、それぞれの地で必死に生きています。

遅くなりましたが、令和4年度の市内総体の結果を裏面に掲載しております